

丸亀支部 活動報告

1 研究主題

確かな学力を育むための「わかる授業」の創造
—メディア活用の目的を明確にした
授業づくり—

2 はじめに

メディア教育研究部会では、今年度の研究テーマを、確かな学力を育むための「わかる授業」の創造とし、サブテーマをメディア活用の目的を明確にした授業づくりとして研究をしてきた。

本年度は、11月に三豊市立三野津中学校で「香川県中学校教育研究会メディア教育部会研究大会」が開催された。本部会でも、幅広い実践の中から電子黒板も含めた各種視聴覚機器・教材などの活用事例を研究するなかで、今後のあり方について考察した。

3 研究計画

(1) 5月2日(水)

丸亀市中学校教育研究会

場所：丸亀市立西中学校

内容：研究組織・研究主題
研究内容の決定

(2) 8月21日(火)

メディア教育部会夏季研修会

場所：e-トピア・かがわ

内容：平成24年度メディア教育
研究大会の事前発表
フューチャースクール事業
について(総務省より)
ICT活用実践講習

(3) 12月7日(金)

丸亀市中学校教育研究会

場所：丸亀市立南中学校

内容：各中学校の取り組みの発表
(電子黒板の活用など)

4 実践事例

(1) 電子黒板の活用

若年教師を対象に、「電子黒板及びICT機器の意見交換会」と題して研修を行った。数学の教師が講師となり、メディア教育の必要性や電子黒板の特性について説明があった。

自由に書き込みができたり、ボタン一つで作図ができたり、操作・保存・書き込みが簡単にできる電子黒板の特徴について説明を受けた。生徒の集中力の高まりや何度もやり直しがきくなどの利点があげられた。同時に、準備(授業内容の作成、電子黒板の運搬)に時間がかかることや機器への慣れが必要であることなど学校現場での課題も出てきた。実際に、電子黒板の積極的な活用は進んでいないが、これまでの黒板に板書する授業とは違った効果が見られることがわかった。今後も、それぞれの教科で活用を模索していく。

これまでに、数学(一次関数)、英語(発音)、体育(実技映像の放映)、学活(進路指導)、部活動などで活用している。

ICT機器の使用で、数学の点の動きの問題、立体図形の問題、英語のネイティブの発音の理解度がより高まった。定着を狙うためには、大型液晶テレビを各教室に壁掛けで配置し、研修は定期的に行うことの必要性を感じた。

(2) パワーポイントの活用

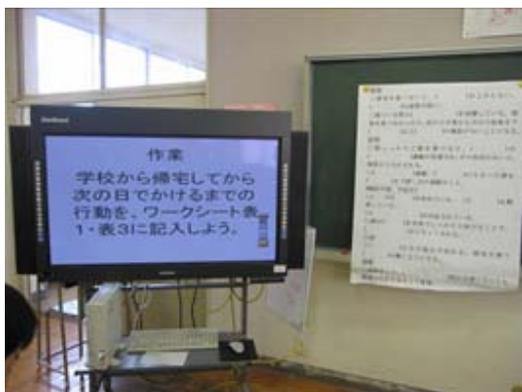
① 授業で板書がわりに活用

プロジェクターで、授業内容をホワイトボードや黒板に投影し、その上から書き込みをする。板書の時間を短縮でき、丁寧に説明する時間ができるので活用する教師が増えてきている。理科の、遺伝の規則性、優生の法則の授業などで活用している。

② レポート発表で活用

文化祭で、職場体験学習の発表に活用した。写真や動画なども利用でき、わかりやすいレポート発表ができた。また、科学体験発表や人権集会の発表にも活用している。

(3) 電子黒板を活用した授業



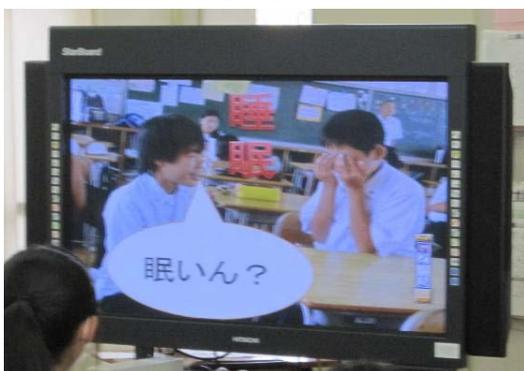
① 学習課題を提示

アニメーションなどの効果を加えることができ視覚効果が高まる。



② グラフや表を掲示

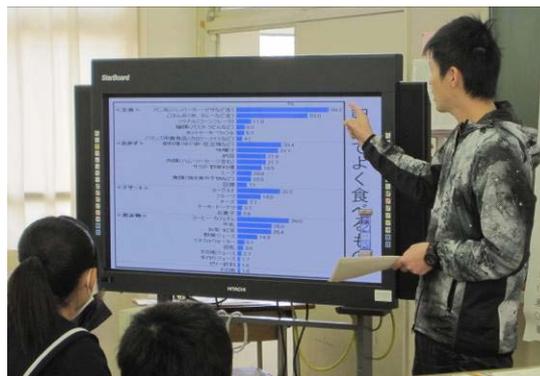
Excel を使って、効果的なグラフを見せることができる。



③ マルチメディアを提示

映像などを複合した画像を提示し、興味や関心を高めることができる。

(4) 電子黒板の利点



① 画面にタッチしてスライドを操作できる。



② スライドに書き込みができる。



③ 移動が簡単にできるので、板書や資料との関係性を考えたレイアウトが可能。

5 今後の課題

各校の実践を紹介する中で、各教科や道徳などの領域で、視聴覚機器・教材の効果的な利用法が紹介された。

これまで慣れ親しんできた機器の使用頻度は高いものの、新たに導入機器はあまり使用されていない現状がある。機器の使用に対して抵抗のある教師もいる。教師自身が機器の使用法を学び、使用する場面を意図的に設定し、活用したいものである。また、生徒が使用する環境作りにも努め、本会の研究テーマにより一層近づきたいと考えている。